

1. 略歴

- 1990年4月 東京藝術大学美術学部芸術学科入学
1994年3月 同上 卒業
1994年4月 東京藝術大学大学院美術研究科日本・東洋美術史専攻修士課程入学
1996年3月 同上 修了
1996年4月 東京藝術大学大学院美術研究科美術専攻博士後期課程入学
2000年3月 同上 修了、博士（美術）の学位取得
2000年4月 日本学術振興会特別研究員（PD）（～2003年3月）
2004年4月 財団法人大和文華館学芸部部員（～2005年9月）
2005年10月 東京工業大学大学院社会理工学研究科価値システム専攻助教授（～2007年3月）
2007年4月 同上 准教授（～2012年3月）
2012年4月 東京大学大学院人文社会系研究科准教授（～2022年3月）

2. 主な研究活動

a 専門分野

日本美術史、主として中世絵画史

b 研究課題

中世やまと絵の研究、絵巻および絵師組織の研究、美術史学における人文情報学手法の導入、中世絵画の復元的考察、海外所在日本美術コレクションの調査研究

c 概要と自己評価

海外における最大の日本美術コレクションであるボストン美術館において、絵巻の悉皆調査を行った成果に基づき『ボストン美術館日本美術総合調査図録』を刊行した。本書は、過去30年以上にわたって同美術館と鹿島美術財団の協働によって行われてきた国際学術調査を総括するものであり、監修者としてボストン美術館との折衝などの実務を担当した。日本美術史の国際的展開に関しては、フランス国立美術史研究所（INHA）主催のフォンテーヌブロー美術史フェスティバルにおいて日本側実行委員を務め、リモート開催された会議のチェアや報告のほか、フォンテーヌブロー宮で再発見された江戸幕末の外交贈答品に関する展覧会の学術委員および図録執筆を担当した。このほか、日本画・日本史・風俗史との協働による中世屏風の復元的研究の出版、中世絵巻の展覧会に関わる作品研究、中世絵師の活動に関する文献的考察、IIIF画像を活用した絵画の様式比較プラットフォームの開発に携わった。

d 主要業績

(1) 著書

共編著、岩永てるみ・阪野智啓・高岸輝・小島道裕編、『「月次祭祀図屏風」の復元と研究—よみがえる室町京都のかがやき』、思文閣出版、2020.5

共著、高岸輝、『国宝粉河寺縁起と粉河寺の歴史』、和歌山県立博物館、2020.10

編著、板倉聖哲・高岸輝編、『日本美術のつくられ方—佐藤康宏先生の退職によせて』、羽鳥書店、2020.12

共著、高岸輝ほか、『〈作者〉とは何か：継承・占有・共同性』、岩波書店、2021.3

共著、Akira Takagishi, *Art et Diplomatie: Œuvres Japonaises du Château de Fontainebleau*, Éditions Faton, 2021.6

共著、高岸輝ほか、『文化資源学 文化の見つけかたと育てかた』、新曜社、2021.10

(2) 論文

高岸輝、「融通念仏縁起絵巻」明徳版本の版行・摺写と表現』、『学苑』、961、330-334頁、2020.11

高岸輝、「美術史／日本史の境界と越境の可能性—展覧会・美術全集・デジタル画像—」、『日本史研究』、700、28-44頁、2020.12

Chikahiko Suzuki, Akira Takagishi, Asanobu Kitamoto, *Style Comparative study of Japanese medieval picture scrolls focusing on landscapes using GM Method with IIIF Curation Platform*, JADH2021, pp.16-21 2021.9

(3) 解説

高岸輝、「王権と絵画—美術をめぐる権力構造」、『美学の事典』、丸善出版、244-245頁、2020.12

高岸輝、「融通念仏縁起絵巻（禅林寺本）」、『国華』1511、71-73頁、2021.9

(4) 学会発表

- 国内、高岸輝、「伝統技術と最新技術で古美術を復元する」、東京大学芸術創造連携研究機構発足シンポジウム「学問と芸術の協働—アートで知性を拡張し、社会の未来を開く—」、東京大学芸術創造連携研究機構、2021.3.21
- 国際、高岸輝、「王者の絵画と御用絵師 1000 年の終焉—10 幅の掛軸をめぐる—」、シンポジウム「再発見！フォンテーヌブロー宮殿の日本美術—徳川幕府からフランス皇帝への贈り物—」、日仏会館、2021.4.17
- 国際、高岸輝、「絵巻に描かれた「喜び」—古代中世の夢告・法悦・救済・奇瑞—」、フォンテーヌブロー美術史フェスティバル、ラウンドテーブル「日本美術における〈喜び〉とその表現」、フランス国立美術史研究所 (INHA)、2021.6.5
- 国際、高岸輝、「王者の絵画と御用絵師 1000 年の終焉—将軍徳川家茂から皇帝ナポレオン 3 世に贈られた 10 幅の掛軸をめぐる—」、フォンテーヌブロー美術史フェスティバル、ラウンドテーブル「美術と外交、フォンテーヌブロー宮殿日本美術コレクション展」、フランス国立美術史研究所 (INHA)、2021.6.6
- 国内、高岸輝、「多巻構成の絵巻における絵師の分担に関する検討—「顔コレ」と GM 法導入による「遊行上人縁起絵巻」(清浄光寺甲本) の比較を通じて」、第 15 回 CODH セミナー「IIIF と AI で変わる美術史研究—大規模顔貌データの様式分析から読み解く日本中世絵巻」、人文学オープンデータ共同利用センター (CODH)、2021.7.29
- 国内、高岸輝、「日本中世における顔を隠す表現とその意味—絵巻を素材として—」、第 21 回 文化資源学フォーラム「顔を隠す—日本中世の絵巻と現代の映え写真から見る、表現と社会」、東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究室、2021.12.19
- 国内、高岸輝、「紀伊国の縁起絵巻と耕雲の役割」、応永・永享期文化論研究会「室町前期の寺院史料」、国際日本文化研究センター、2022.3.26

(5) 啓蒙

- 高岸輝、「私の気になる細川家の一点「細川澄元像」—動乱の時代に踏みだす貴公子の哀愁」、『季刊永青文庫』、112、26-27 頁、2020.9

(6) 予稿・会議録

- 国際会議、Alexis Mermet, Asanobu Kitamoto, Chikahiko Suzuki, Akira Takagishi, Face Detection on Pre-modern Japanese Artworks using R-CNN and Image Patching for Semi-Automatic Annotation, SUMAC'20: Proceedings of the 2nd Workshop on Structuring and Understanding of Multimedia heritAge Contents, pp.23-31, 2020
- 国内会議、鈴木親彦、高岸輝、本間淳、Alexis Mermet、北本朝展、「日本中世絵巻における性差の描き分け—IIIF Curation Platform を活用した GM 法による『遊行上人縁起絵巻』の様式分析」、『じんもんこん 2020 論文集』、67-74 頁、2020.12

(7) 研究報告書

- 高岸輝、梅沢恵、「ボストン美術館所蔵日本美術品調査図録刊行（「美術普及振興」研究報告）」、『鹿島美術財団年報』37、663-666 頁、2020.11

(8) 監修

- 辻惟雄・アン・ニシムラ・モース・高岸輝編、『ボストン美術館 日本美術総合調査図録』、中央公論美術出版、2022.3

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

- 非常勤講師、慶應義塾大学文学部、「美術史特殊講義（日本絵巻史）」、2021.4～
- 特別講演、唐招提寺・一般財団法人律宗戒学院、「鑑真和上の風景—「東征伝絵巻」に描かれた中国と日本—」、2021.6

(2) 学会

- 国内、日本歴史学会、評議員、2018.7～
- 国内、美術史学会、常任委員、2019.6～
- 国際、国際美術史学会、代理委員、2021～

(3) 行政

- 人間文化研究機構 国文学研究資料館、運営会議委員、2016.4～2022.3
- 公益財団法人 阪急文化財団、文化財修理事業専門委員、2020.10～